

# ASC基準： 整合化とコア基準の策定

ASC Standards: Harmonisation & creation of a Core Standard

バス・ギアーツ  
ASC基準監督ディレクター  
2016年8月

# 本日の発表内容

Table of contents



- はじめに Introduction
- スケジュール Timeline
- 目的 Objectives
- 作業手順 Process
- 整合化 How to harmonize
- ASC種別付属文書 The ASC Species specific annexes
- 振り返り Reflection
- 今後の予定 The Future



# はじめに：整合化について

Introduction to Harmonisation



- 2012～2014年に7基準が発表され、ASC認証はマーケットに急速に普及した。8番目のブリ・スギ類基準は2016年に公開予定。

7 standards launched in 2012-2014, with quick market uptake for ASC certification.

8<sup>th</sup> standard *Seriola/Cobia* will be launched 2016.

- 過去3年間で様々なノウハウが蓄積された。

Experience & information gained over the last 3 years.

- 現在、ASCが認証にいたる道筋が、より分かりやすく、効率的で一貫性をもたせるための基準の整合化を実施中。

Now: Harmonise standards in view of creating a more user-friendly, efficient & consistently applied route to certification through the ASC.

- コア基準によりASC認証プログラムに新規の種を追加が可能となる。

Core Standard will be used to add new species to ASC program.

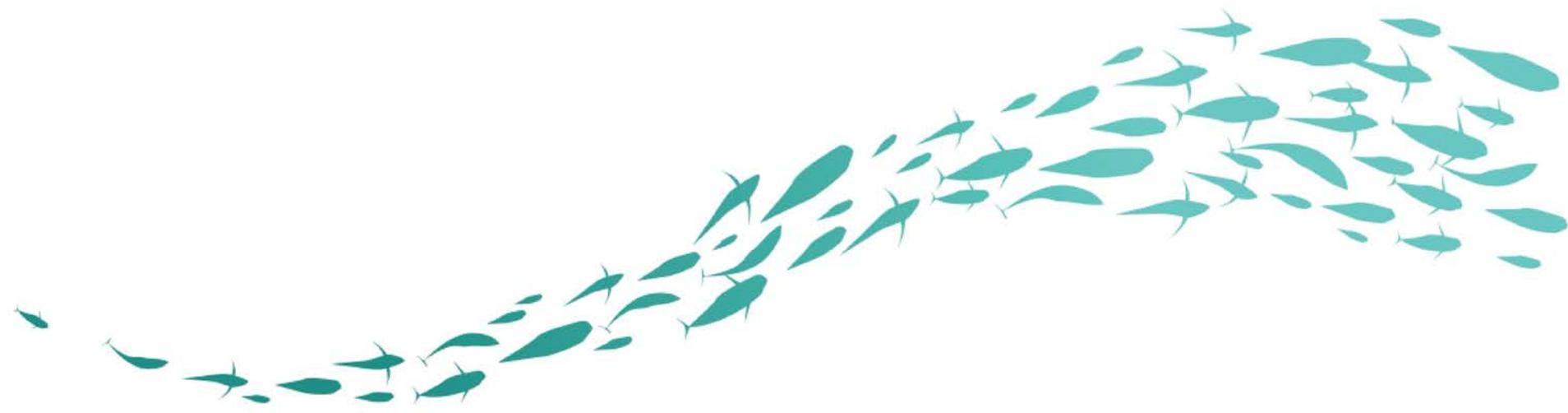
# はじめに：整合化について②

Introduction to Harmonisation



- すべての基準について、基準の徹底的見直し作業に必要な変更を提示するために、その意図、文章表現、要件内容を比較検討し、整合化作業が着手された。詳しくは実施要項を参照のこと。

To achieve this, the harmonisation project has been initiated, with all of the standards being reviewed with comparison of intent and wording of text and requirements to propose the changes necessary in this overhaul of the standards, see Terms of Reference (ToR).



# スケジュール Timeline



作業内容	締め切り	成果物
現行8基準の比較	2014年10月15日	現行基準の重複、類似、差異の確認
ToRの作成	2014年12月15日	ASCウェブサイトにてToRを公開
整合化した基準案(v1.0)の作成	2015年6月15日	第一草案を内部で共有
内部連絡会議	2015年8月	第二草案を内部で共有
専門諮問グループへ提示	2015年9月16日	
内部ワークショップ等によるコア基準の改定	2015年11月	第三草案
技術作業部会TWGのTORを策定	2015年11月	技術作業部会のTOR
TWGの招集	2016年1月15日	TWGメンバーをASCウェブサイトで公表
利害関係者のフィードバック用手続きの準備	2016年6月15日	わかりやすいコメント送信用の手引き・フォーマット
第一草案に対するパブコメ募集	(2016年8月開始) 2016年10月	ASCウェブサイトにて第一草案を公開
外部利害関係者からのコメント処理	2016年11月31日	コメントとTWGの回答の要約のウェブサイトでの公開(コメントの差出人は匿名とする)
コメントの第二草案への反映	2016年12月30日	第二草案の内部で公開
第2回パブコメ募集が必要かの決定	2017年1月15日	実施の是非、期間(30日or60日)の決定
パイロットプロジェクト	未定	
仮: 第二草案に対するパブコメ募集	未定	
基準の最終承認	未定	基準バージョン1公開



# 目的 Objective

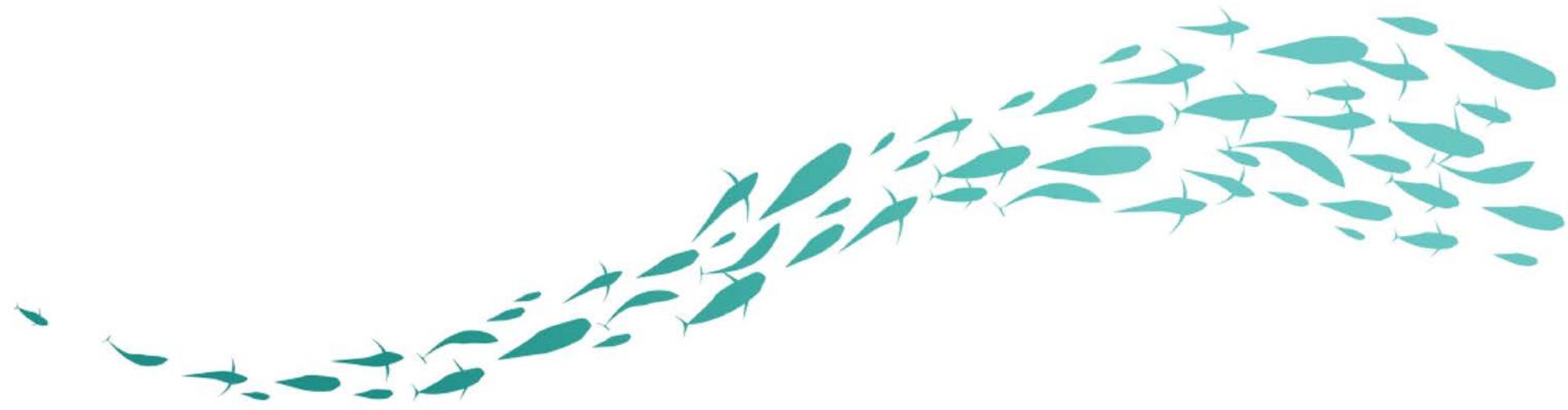


- プロジェクトの最終目的は、すべての種がASC認証を取得できる「コア基準」を策定すること

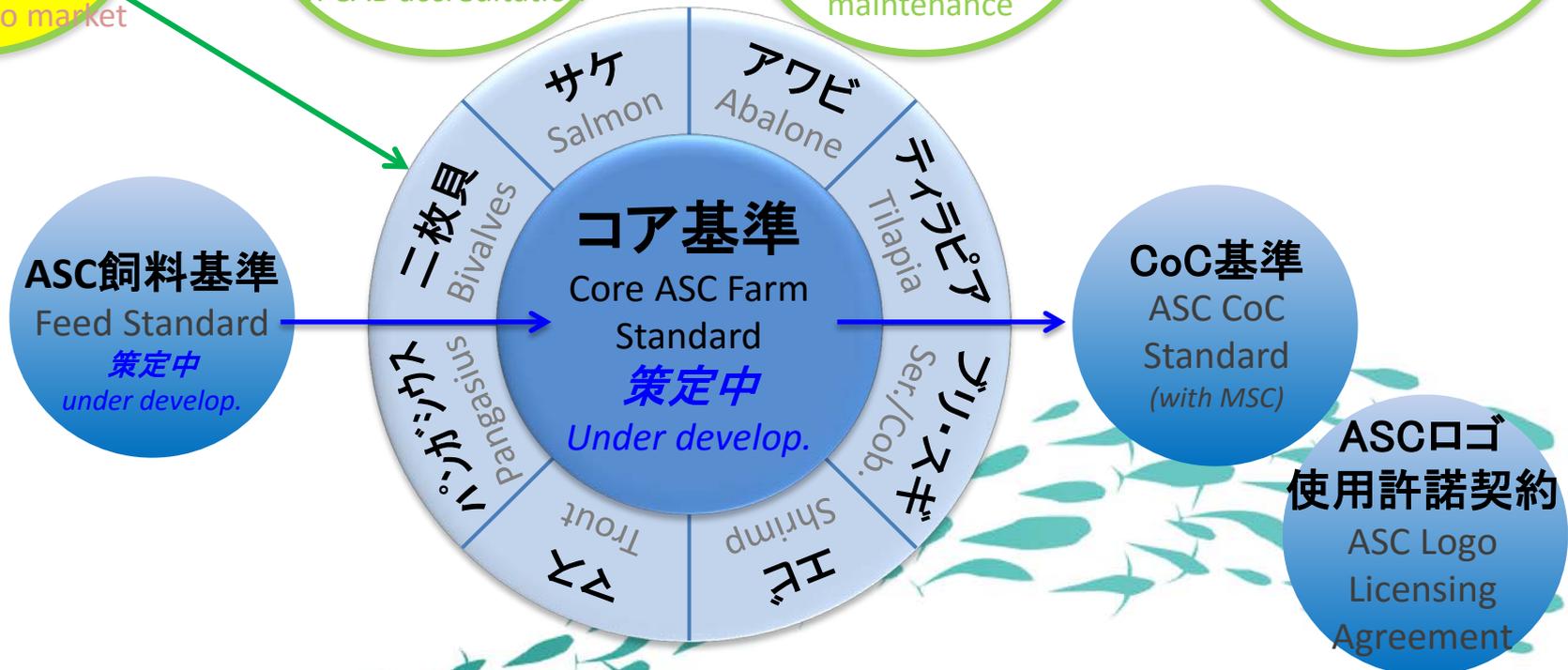
Goal of project is to produce a complete 'Core Standard' for all species groups that undergo ASC certification.

- 種ごとの要件、専門的情報、追加項目はコア基準の付属文書で提示される。

Species-specific requirements, technical information & additional sections can then be presented in a separate document supplementing the Core Standard.



# 目的② Objective



可能な一般的要求事項および必要とされる種固有の要件  
generic requirements where possible & species specific requirements where needed

## 目的③ Objective



- **ASC認証の拡張性**: 新規種をより簡単に基準の対象へと編入

Scalability of ASC certification, with new species being introduced far more easily, expanding the reach of the standards.

- **実効性の向上**: マーケットの最新動向や変化に対応し、その変化を基準に組み入れるより効率的な手法

More effective response to updates and changes within the market, due to a more efficient approach to integrating such modifications into the standard.

- **一貫性の向上**: 文章表現の整合性を図ることで指標の解釈のばらつきを少なくするような基準を採用

More consistency when applying the standards as there will be less scope for variety in the interpretation of indicators when the wording is harmonised

このプロジェクトはASCの最終目標である養殖による環境と社会への悪影響を最小化するのに役立つ

This contributes to the ASC's ultimate aim of minimising the environmental and social impacts of aquaculture.

# 作業手順 Process



1) 同等と考えられる情報について基準間で整理分類

STEP 1: **Group** the data across the standards where information is considered to be comparable.

2) 各分類データを検証

STEP 2: **Review** each data-group.

3) 可能な場合、整合性を図り不可能な場合その正当性または事例を記述

STEP 3: **Harmonise** the language where possible, justify alteration or of instances where harmonisation is not possible.

# 準備 Preparation

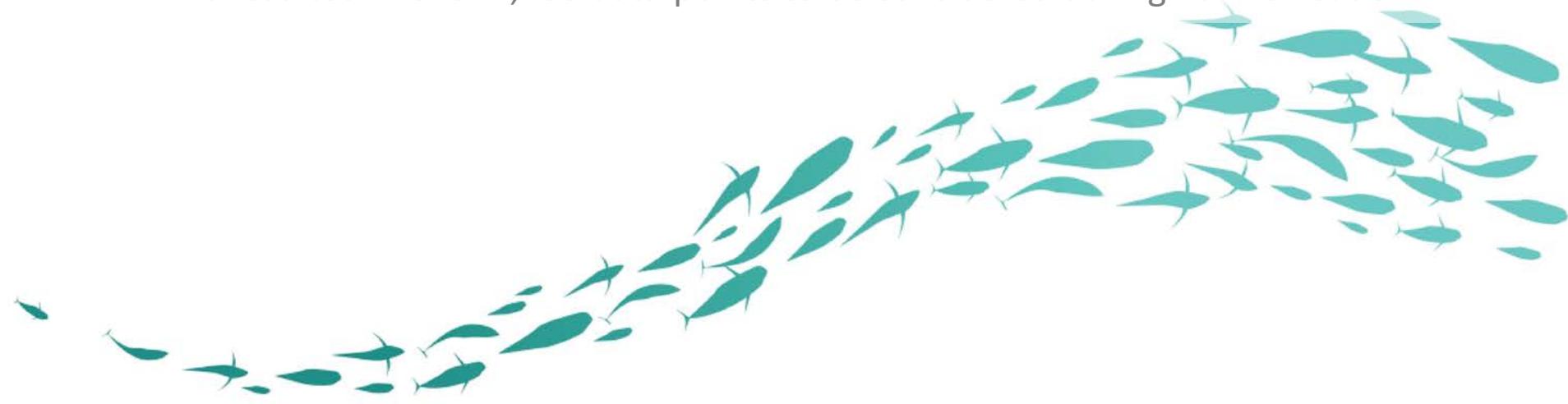


- 原則、影響、判定基準、根拠、指標、要件、脚注、別紙の基準の全ての情報は集約された。

The information within all of standards was collected, consisting of principles, impacts, criteria, rationale, indicators, requirements, footnotes & appendices/annexes.

- 1200を超える箇所で整合化を図る必要があることがわかった。

This resulted in over 1,200 data-points to be considered during harmonisation.



# ASCの要件に求められる事項

Targets for being an ASC requirement



1. 測定可能か、定量的な報告のきっかけとなりうるか  
Is it metric / will it trigger metric reporting?
2. 科学的証拠にもとづいているか Is it based on scientific evidence?
3. 業界のベスト・プラクティスに相当するか相当するか  
Does it represent Industry's best practice?
4. 明快か、関係者によって解釈が異なるか  
Is it clear / will it be consistently interpreted by all relevant stakeholders?
5. 監査可能か Is it auditable?
6. 現実的か Is it realistic?
7. 世界的に適用可能か Is it globally applicable?
8. 用語と手法の使い方は一貫しているか  
Consistent use of wording and methodologies?
9. 理解可能か Does it make sense?

# 基準書の構成

Document structure



## コア基準

Core Standard

- 原則 Principle
- 課題 Issues
- 影響 Impact
- 判定基準 Criterion
- 指標 Indicator
- 根拠 Rationale

## 別添文書の要件

Annexed Requirements

- 要件 Requirement
- 適用範囲 Applicability
- 方法 Methods
- 別添 Annexes
- 手引き Guidance
- チェックリスト Checklists

# 整合化：現在の状況

Harmonisation-current status



- ウェブサイトに公開された要項ToRに従い、必要に応じて改定・変更  
Following the ToR on the website & updating / revising when necessary
- 専門諮問グループより少人数の技術作業部会を設置し、ボストンのシーフードショー2016にて第1回会合を開催。本作業部会が活動をリード。  
Established a small TWG from TAG members, first meeting was at the Seafood Show in Boston, 2016, this TWG is leading activities
- 8基準を原則、判定基準、指標のひとつのリストにまとめた。現行のおよそ1000の要件を100前後に簡略化。ただし種特有の要件に関しては保持。  
Combined the 8 standards into one list of Principles, Criteria and Indicators – simplifying from around 1000 currently into around 100. Not eliminating any yet that are specific to species.
- コア基準案は30ページを超える枚数、詳細を記した技術的な別添は150ページを超える枚数となった。  
The result is a draft a core standard document of 30+ pages, accompanied by a technical annex that gives the detail, is 150+ pages

# 指標の整合化：指標数

## Harmonising Indicators: The Numbers

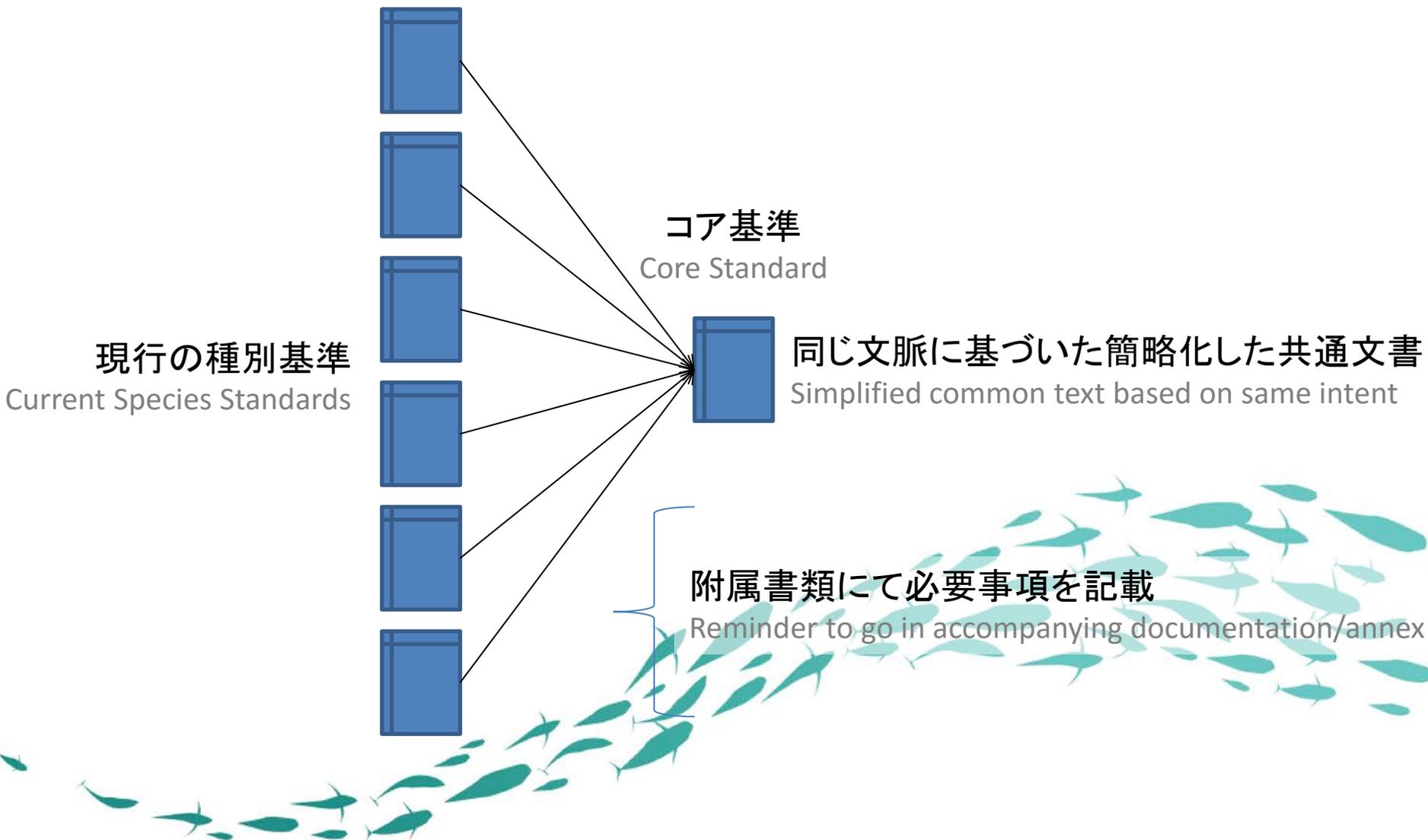


グループ	基準	現行基準における数量	コア基準での予定数量
関連するすべての法および規則の順守 Comply with all applicable laws and regulations	原則1	8	1
	判定基準	9	1
	指標	24	3
生息環境と生態系の保全 Conserve habitats and ecosystem	原則2	8	1
	判定基準	55	5
	指標	134	25
天然および養殖個体群の健康と遺伝的多様性の保護 Protect health and genetic diversity of wild and farmed populations	原則3	7	1
	判定基準	33	4
	指標	66	13
養殖魚の健康、倫理的な取り扱い、病虫害管理、食品安全 Manage fish health, welfare, disease management and food safety	原則4	8	1
	判定基準	29	4
	指標	96	20
資源の責任ある利用 Use resources responsibly	原則5	8	1
	判定基準	39	4
	指標	100	10
社会的に責任ある養殖場経営 Be socially responsible on the farm	原則6	8	1
	判定基準	78	13
	指標	172	32
周辺地域との連携 Be a good neighbor	原則7	8	1
	判定基準	17	4
	指標	48	11
合計 total across ASC standards	原則	57	7
	判定基準	260	35
	指標	640	114

この表は整合化に要する情報の数量分布を示している。別添、根拠、手引などは含まれていない。

This table shows the distribution of data-points for harmonisation. Does not include annexes/rationale/guidance...

# 文章の整合化 Harmonising text



# 指標の整合化 Harmonising Indicators



- 指標から着手し、各基準のデータを検証、ある基準のある指標の意図する内容が他の基準でも見られた場合、同一グループとした。Starting with indicators, data from each standard were reviewed and, where intent of an indicator within a standard was also found in other standards, they were grouped.
- 8基準で類似する指標、および1基準のみで見られる指標についてもグループ分けが完了した。  
This grouping was completed for indicators found to be comparable across 8 standards, down to indicators found in just 1 standard with no comparable data.
- 第二段階では、さらに指標がグループ分けできるかを確認  
Secondary grouping, check if more indicators can be grouped
- 最終段階では、基準間で共通して見られる指標全てを各指標グループ言語が整合化可能かを見るために確認した  
Upon final grouping all of the commonly found indicators across the standards, each 'indicator-group' was then reviewed to see if the language could be harmonised.

# 指標の整合化②

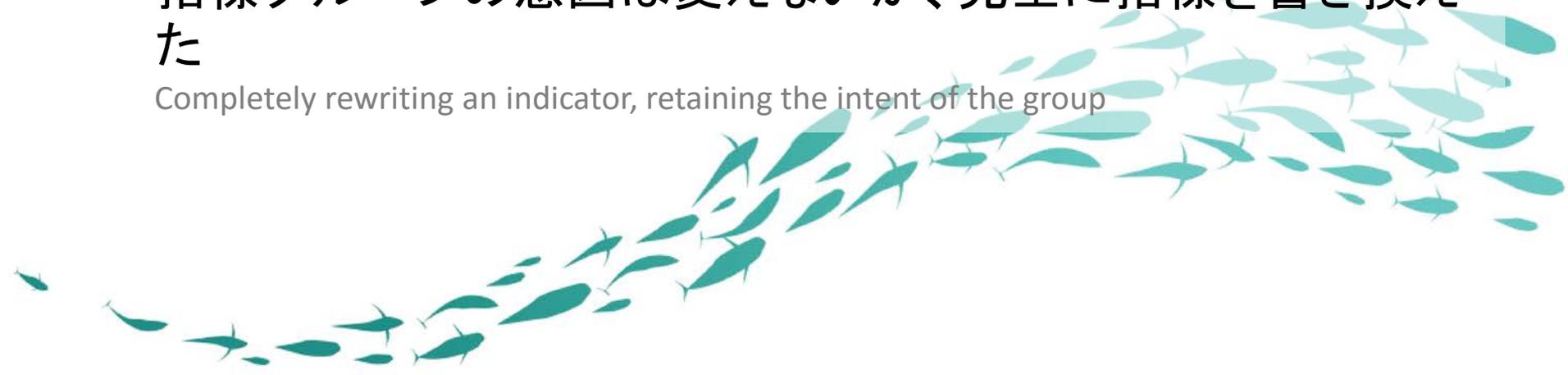
Harmonising Indicators cont.



コア基準の整合化された文章案は以下の方法で作成された

Harmonised texts suggested for Core Standard included:

- ある指標からの文章をそっくり全て使用した  
Using complete text from an indicator
- グループ内の様々な指標を部分的に使用した  
Using parts from different indicators within the group
- 用語に若干の変更を加えた  
Making slight changes to wording
- 指標グループの意図は変えないが、完全に指標を書き換えた  
Completely rewriting an indicator, retaining the intent of the group



# 指標の整合化: 例

Harmonising Indicators; Example



- 絶滅危惧種の死亡事故の防止

Prohibition of mortalities of endangered species

基準	サケ	マス	ブリ・スギ	パンガシウス	ティラピア	エビ	アワビ	二枚貝	コア(案)
指標	2.5.3 養殖場における絶滅危惧種またはレッドリスト指定の海産哺乳類および鳥類の死亡数	2.1.3 国際自然保護連合の絶滅危惧種のレッドリストにおいて、VU、NT、EN、CRにランクされた種が養殖場に生息しているかの評価。そのような種の生息に対し与える養殖場の影響評価、悪影響を低減するための代替措置を明確に定義し種の生息を可能とすること	2.4.2 養殖場のリース区域および近接域における、養殖の作業工程や、作業員など関連事項による絶滅危惧種の死亡数	6.6.2 IUCNレッドリスト記載種の死亡	4.4.2 IUCNレッドリスト記載種の死亡	2.3.1 IUCNのレッドリスト、国の目録作成作業またはその他の公的目録によって規定された絶滅危惧種にとって必要な生息地への養殖場の設置	2.1.1 条例による義務化されていない、もしくは環境影響評価が実施されずに養殖の許認可が行われている場合、絶滅危惧種やそれらが依存する生息環境に重大な負の影響を与えていないことの証明	2.3.1 絶滅危惧種または絶滅危惧種が依存する生息地に対する危害の許容	養殖場の操業の結果(絶滅危惧種等が依存する生息環境に与える影響も含む)死亡した絶滅危惧種またはレッドリスト記載種の数

# 指標の整合化: 例

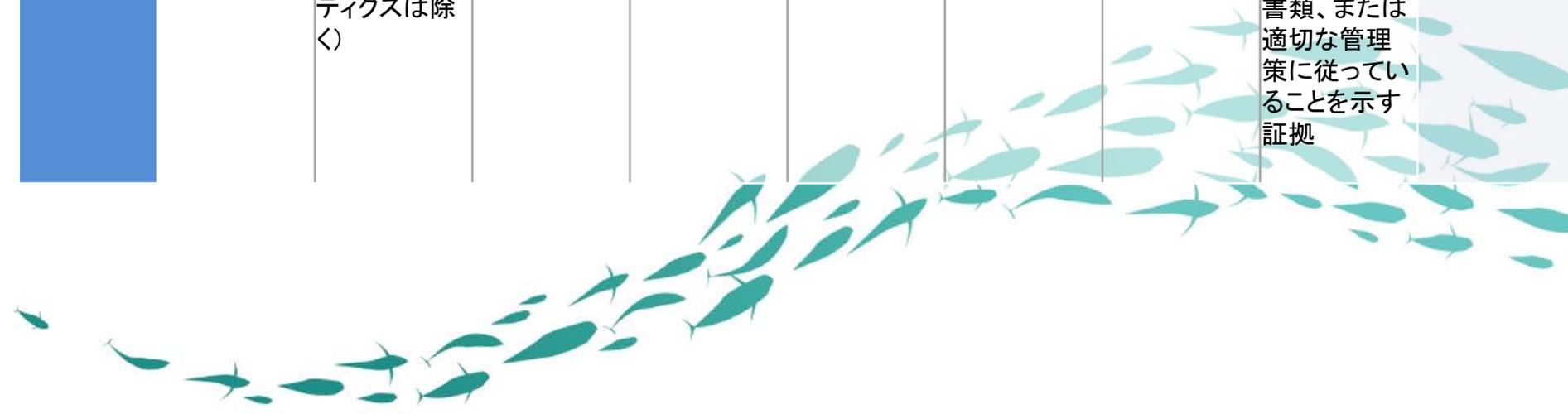
Harmonising Indicators; Example



- 医薬品の予防的使用

Prophylactic use of medicines

基準	サケ	マス	ブリ・スギ	パンガシウス	ティラピア	エビ	アワビ	二枚貝	コア(案)
指標	5.2.7 抗菌剤処理による病害虫の予防	4.2.3 化学的抗菌処理の予防目的での利用(リスク評価を含む規定プロセスにより承認されているプレバイオティクスとプロバイオティクスは除く)	5.2.2 化学的抗菌処理の予防的使用(プレバイオティクスを除く)	6.2.6 特定の疾病が確認される以前の水産用医薬品(ワクチンを除く)の予防的使用の許容	6.2.2 特定の疾病が確認される以前の抗生物質の予防的使用の許容	該当指標なし しかし予防的使用した製品は認証に不適であると根拠に記載	4.1.4 抗生物質の予防目的での使用	3.1.2 種苗や養殖場の施設とともに持ち込まれた病気や有害生物を防止し、管理するための確立した手続きを順守していることを示す書類、または適切な管理策に従っていることを示す証拠	特定の疾病が確認される以前の水産用医薬品(ワクチンを除く)の予防的使用の許容





# 指標の整合化: 例

Harmonising Indicators; Example



- 自然回復基金への貢献(パンガシウス)

Contributions to a restoration fund (Pangasius)

基準	サケ	マス	ブリスギ	パンガシウス	ティラピア	エビ	アワビ	二枚貝	コア(案)
指標	該当指標なし	該当指標なし	該当指標なし	2.2.2 自然環境および社会の回復基金に対し、生産量1トンにつき年間50USD以上を寄付したことの証拠  ASCが確認すべきこと。監査の時点で、基金がいまだに設立する必要があると認識されれば、基準2.2.2は検討されない	該当指標なし	該当指標なし	該当指標なし	該当指標なし	本要件は均一な指標に関するASCの要件に適合しているか。もし合意しない場合、削除を検討する。  他の7基準に類似する指標はない

# コア基準の例(原則2)

Core standard example  
(Principle 2)

## 原則2:種、生息環境、生態系の保全

懸念事項:環境および生態系への影響

影響:養殖場が自然環境、地域の生物多様性、生態系機能そして生態的に影響を受けやすい環境への潜在的な影響に取り組むことを目的とする。この原則では、海面養殖では特に、底生環境への影響、配置、化学薬品使用による影響、栄養塩の負荷といった主要な影響分野に関して取り扱う。内水面養殖では、水質、養殖場の建設と操業の品質に関連する排水量と水質の潜在的影響について取り扱う。これらの影響は水の供給源が表層水か地下水か、またはそれら両方かといった要件、そして養殖場から自然環境へ排出される水の質と関連する。生産にあたって成長促進剤または加工飼料、あるいはその両方を使用するかどうか、効率的に投与することが、養殖場から排水先である水域の保全に役立つ。

この原則は養殖場が在来魚の個体群構造を壊さず、排水先の水域の富栄養化を増大させず、影響を受けやすい生息環境の損失を引き起こさず、生産の失敗や生態系の劣化につながらないことを確保することを目的としている。必要な特定の水質を作り出すためにも、窒素やリンのような水に関する重要な変数をコントロールすることは重要である。これらの潜在的影響に対処するため、排水の水質をモニタリングすることは、養殖生産により容認できない水準の汚染が起きないようにすることは重要である。

生け簀の影響は海面と内水面とで異なる。例えば海面養殖と比較して内水面養殖での生産量は異なっており、基準は設置上限について考慮している。

原則2はブリ・スギ類の養殖による自然環境、地域の生物多様性、生態系の機能への潜在的な影響について対処することを目的としている。特に底生動物、場所の設定、薬品使用の影響、栄養塩の流入の影響について取り扱う。

### 判定基準 2.1 生態系影響の評価と軽減

#### 指標

2.1.1 生物多様性および自然環境への養殖場への影響の評価が採用、実施されていること



### 2.1.1 生物多様性および自然環境への養殖場への影響の評価が採用され、実施されていること

# 別添要件の例(原則2)

Annexed requirements example (Principle 2)

要件
サケ: 生物多様性および近傍の生態系に与える養殖場の潜在的影響評価に関する証拠
マス: 養殖場における IUCN「絶滅の恐れのある生物種のレッドリスト」記載種の生息状況評価
ブリ・スギ類: 生物多様性および近傍の生態系に与える養殖場の潜在的影響評価に関する証拠
バンガシウス: 過去 10 年間に農地または養殖場として配分された土地だけが、新規養殖池としてまたは養殖池の拡大に使用されたという証拠
ティラピア: 所在地、履歴、管理組織の活動の一覧表の記入が完了し、検証されていること
エビ: 養殖場所有者が参加型の生物多様性に対する環境影響評価を委託していること
アワビ: 絶滅危惧種またはそれらが依存している生息環境に対し重大な不可逆的影響を与えていないという証拠
二枚貝: 適用外



## 原則6: 社会的に責任ある養殖場運営

懸念事項: 養殖場の社会的影響に対する対処

影響: 養殖は養殖場の労働者の利に資するよう社会的に責任のある方法で運営されなければならない。この原則は国際労働機関 ILO の基本原則に基づき養殖場の設立と運営による社会的側面での潜在的悪影響に対処する。また基本的人権であると国連が合意したその他の事案についても取り扱う。苦情の対処手順と告発者の保護は公正公平な労働環境の達成と維持に必要な不可欠である。養殖場は、労働者および管理者に対し関連する研修の機会を提供するべきである。

# コア基準の例 (原則6)

Core standard example  
(Principle 6)

### 判定基準 6.1 児童労働と若年労働者

指標
6.1.1 児童労働がないこと
6.1.2 若年労働者が保護されていること

根拠-児童労働規範と定義への支持は、ILO と国際条約が児童および若年労働者の保護のために必要な事項として一般に認識していることに対する準拠を示す。児童は身体能力、知識と経験の不足により、特に経済的搾取の対象として被害を受けやすい。児童と若年者の健全な発達のためには、教育、遊びその他の適正な時間が必要である。したがって彼らはその新信徒精神の健全性にとって有害な時間と条件で労働に従事してはならない。児童労働を構成要素に関連した要件により、これらの要件に対し認証を取得した養殖場では、児童と若年労働者の権利は保護されるだろう。

### 判定基準 6.2 強制・拘束・奴隷労働

指標
6.2.1 強制、拘束、奴隷労働がないこと
6.2.2 労働者が養殖場を離れる権利をもっていること



# 別添要件の 例(原則6)

Annexed requirements  
example (Principle 6)

## 6.1.1 児童労働がないこと

### 要件

全種群: 児童労働の発生件数がない

## 6.1.2 若年労働者が保護されていること

### 要件

サケ、パンガシウス、マス、ティラピア、アワビ、二枚貝、プリ・スギ類: 若年労働者が放置された事例がないこと

エビ: 養殖場に若年労働者がいないこと

## 6.2.1 強制、拘束、奴隷労働がないこと

### 要件

サケ、マス、アワビ、二枚貝、プリ・スギ類、パンガシウス、ティラピア、エビ: 強制、拘束、奴隷労働の事例がない



# 種別付属文書

The ASC Species specific annexes



- コア基準における整合化された用語は、種間で差異が生じる種特有の要件（造肉係数や養殖システムによる差）は意図的に省略した

Within draft Core Standard, harmonised wording intentionally omits specific requirements that may vary across species-groups (such as feed conversion ratios or variation across production systems).

- 別添文書または別個のASC要件書で提示されたこの情報は改定、修正、新規種の追加がより簡便になっている

This information to be presented in annexes or separate “ASC Requirements” document, allowing for easier updates, modifications & inclusion of new species.

- これらの要件も再確認の作業中である。

These requirements are also in process of review.



# 注意書きの整合化

Harmonising the remainder



- 基準でリスト化された各々の構成要素についても同様の手法が実行され、集約した160ページの文書を30ページ以下にまで集約した。

A similar method was carried out across each of the listed components of the standards, reducing a 160 page document of collected material to, presently, fewer than 30 pages.

- コア基準の第一草案の作成過程は完了していないが(要件、脚注、別添が検証作業中)、コア基準の発表はもうまもなくである。

Whilst the process of creating the initial draft of the Core Standard is not yet complete (requirements, footnotes and annexes are still in process of being reviewed), presentation of Core Standard is taking form.



# 振り返り Reflection

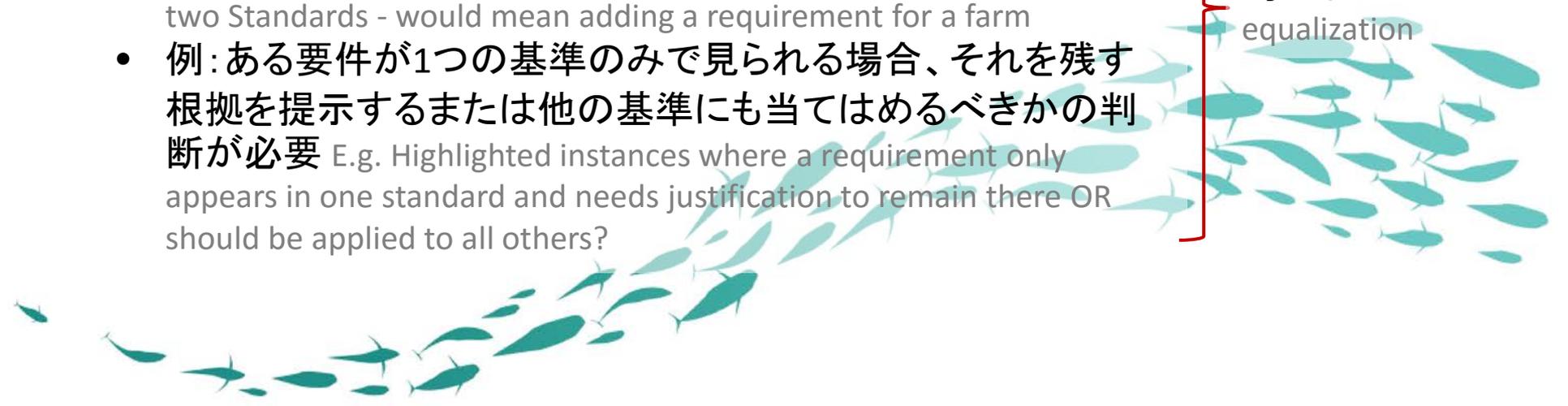


- コア基準は原則、影響、判定基準、根拠、指標から構成される A Core Standard consisting of Principles, Impacts, Criteria, Rationale, indicators
- 別添は適用範囲、要件、方法を記載(コア基準に対する付帯文書) Annexes with applicability, requirements, methods (accompanying document to the Core Standard)
- ASC要件に求められる要素に伴う不一致を確認 Highlighted inconsistencies with the targets for being an ASC requirement
- 例:ある要件が1ないしは2つの基準を除いてすべての基準である場合、養殖場には要件が追加されることを意味する E.g. Highlighted instances where a requirement appears in all but one or two Standards - would mean adding a requirement for a farm
- 例:ある要件が1つの基準のみで見られる場合、それを残す根拠を提示するまたは他の基準にも当てはめるべきかの判断が必要 E.g. Highlighted instances where a requirement only appears in one standard and needs justification to remain there OR should be applied to all others?

簡略化  
simplicfication

整合性  
coherence

均一化  
equalization



# 今後の予定 The Future



- 整合化した基準について作業部会と相談  
Consultation with working group(s) over Harmonised Standard
- 要件書の作成 Development of Requirements Document
- 採点方式の策定 Development of Scoring System
- 監査マニュアルの作成 Development of Audit Manual
- パイロット監査と検証 Piloting & Testing
- 新基準の発表 Release of new Standard

専門グループおよび関係者との検討は改定作業中のISEAL基準に従って行われる。

Consultation with technical groups and stakeholders will be conducted throughout the process of creating the updated, ISEAL compliant Standard.

# 今後の予定②

The Future cont.



- 種群に対する要件の追加削除: 利害関係者に理解される必要あり

Adding and removing requirements to species groups – needs to be understood by stakeholders

- 作業部会の任命 Appointing a working group
- 担当の作業部会での検討、種群ごとの要件の確定、そしてISEAL基準に沿って策定する必要があり、コア基準第一草案を完成させるための整合化作業が多く残っている。

There remains a significant amount of harmonising to be completed for the first draft of the Core Standard, with consultation with working-groups contributing to this as well as the requirements for each species-group being defined and the standard will need to be ensured as ISEAL compliant.





# Thank you!

Bas.Geerts@asc-aqua.org



[www.asc-aqua.org](http://www.asc-aqua.org)



Aquaculture Stewardship Council



@ASC\_aqua